

学校教員 2012年度

A・Aさん（言語教育コース）
京都市小学校 合格

【はじめに】

私は、3回生の教育実習で改めて「絶対に教師になりたい！」という思いをもちました。しかし、私のコースは中学校英語が主免のコースなので、小学校を受験するのは私一人でした。また、滋賀県を受験する人がほとんどなので、京都市の小学校教員を目指す人も身近にいませんでした。だから、不安になることもとても多かったです。私のように、不安を感じている人へ何か参考になればこの体験記を書かせていただくことにしました。

ただし、これはあくまで私がしてきた勉強方法なので、参考程度にしてください。それぞれ自分に合った方法を見つけることが最も大切だと思います！

【一次試験】

●筆記試験

大学推薦をいただいたので、筆記試験は免除でした。

●個人面接

1、「子どもたちに伝えたい私の感動体験」

まずは、自分で何度も何度も練習しました。その後、友達や知り合いの先生などに聞いていただき、アドバイスをいただきました。客観的に見てもらうことで、自分に足りないところがわかるのでおすすめです。最初は、2分間で言えるように何度も練習し、さらに表情や身振り手振りまで意識して練習できたらいいと思います。

2、個人面接

感動体験の後すぐに、個人面接が始まります。私は、面接にむけて「面接ノート」をつくっていました。面接ノートをつくっていた人はたくさんいたと思いますが、私のこだわりは「キーワードしか書かない。」ということです。理由は2つあります。ひとつは、文で書いてしまうと、実際に面接で答えるときに丸暗記の文を読んでいるような答え方になってしまう気がしたということ。2つめは、その文が思い出せなかったときに焦ってしまいそうだと思ったからです。自分の話の軸は抑えておいて、あとは本番で自分の思いを自分のことばで話そう！と思っていたので、あえてノートには文章では書きませんでした。

【二次試験】

●小論文

京都市は、40分で1200字です。他府県の小論文に比べ、時間は短く、文字数は多いです。私は初めて書いたとき、とてもじゃないけど書ききることはできませんでした。私がまず始めたことは、知識を蓄えることでした。例えば、「いじめ」に関する内容だと、①早期発見②早期対応③見届けという3つの観点にわけることができます。何の知識もなく小論文を書き始めると、自分の論がいたりきたりしてしまって、結局何が言いたいの？となってしまいます。「いじめ」「言語活動の充実」「キャリア教育」など、小論文の過去問からキーワードを抜き出し、ひとつずつ勉強していきました。そして、小論文を書くときには、2～3つの軸を意識しながら書くようにすると、整理された小論文になると思います。その軸に、自分の経験や思いをつけて書くと、より良い小論文になると思います。

●体育実技

体育は、要項が出てから始めても遅くないと思います。私の時は、マット運動とバスケットボールでした。大学の体育館を借り、友達とマットの練習をしました。マット運動は、ビデオに撮って見ると、自分のできていないところがわかるのでおすすめです。

●集団面接

集団面接の練習は、一人ではできないので、周りの人と一緒に練習するのがいいと思います。また、いろいろな人と練習することで、自分の考え方も広がります。集団面接のポイントは、自分の意見だけではなく、周りの意見もしっかりと受け止めることだと思います。前の人の意見に付け足したり、同じ観点ばかりの話が続いていたら少し違った観点から切り込んでみたり。「みんなで議論を深めていこう」という気持ちで望むといいかと思います。

●模擬授業

京都市の教員採用試験で一番配点が高いのは、この模擬授業です。私は、夏休み毎日毎日模擬授業の練習をしていました。滋賀大学の先生に見てもらうだけでなく、他大学の友達とも一緒に練習していました。まずは、声の大きさを意識したり、板書の練習をしたり、基本を押さえるといいと思います。板書の時に、漢字の書き順を間違えていると、結構目立ってしまいますので、注意が必要です！！

【最後に】

教員採用試験の対策は、ひとりでするよりもみんなで協力してすべきだと思います。他の人と話す中で、価値観も広がりますし、自分に足りないところを指摘してもらって直すこともできます。

教員採用試験の勉強をしている中でなんども不安になることがあると思います。その時は、友達と話したり、先輩に相談してみたりしてください。気分が落ち込んでいる時こそ外に出て、他の人と話すといいと思います。

本番は、「私は絶対に教師になるのだ。」という強い気持ちをもって臨むことが一番大切です。面接も体育実技も模擬授業も、はきはきと元気よく笑顔で受けましょう。応援しています！！

I・Yさん（学校心理コース）

滋賀県小学校 合格

○教員採用試験に向けてのきっかけ

私が教員採用試験を受けようと思ったのは教育実習に行ってからです。それまでは、授業の内容や仕事の責任感の重さに不安を感じ、採用試験を受けるか迷っていました。しかし、教育実習で子どもたちの笑顔に勇気もらい教員採用試験を受けようと思いました。

実際に勉強をはじめようと思い始めたのは11月の教員採用試験研修合宿に参加してからです。先輩方から勉強方法や実際の職場の様子をうかがうことができ、より教師になりたいという思いが高まりました。この合宿が、教員採用試験の勉強に向けて少しずつですが頑張るきっかけになりました。みなさんもぜひ参加してみてください。

○4回生になるまでの4カ月は・・・

教員採用試験養成合宿に参加してからモチベーションが高まり、まずは参考書を買そろえました。らくらくマスターや一般教養、教職教養の参考書を友達とどれがいいのか相談しながら買いました。しかし、教師塾の研修や3回生の論文でなかなか時間をとることができませんでした。11月12月はまわりがどんどん採用試験の勉強をしているのに自分は時間がうまく勉強時間をつくることができずに焦る気持ちしかありませんでした。しかし、1月で新年を迎えたことを自分の中の区切りとして、毎日2時間は採用試験の勉強のための時間を作ろうと決めました。

毎日のスケジュールを時間単位であらかじめ決めて何時～何時はアルバイト、何時～何時は論文、何時～何時は教職教養の勉強と決めることでうまく時間をつくることできるようになりました。1月はそれで順調に進んでいましたが、2月になり、論文を本格的につめていく時期になり、また勉強する時間をつくることができなくなりました。そこで、論文を書き上げるまでは、机に向かって勉強する時間を作れなかったため、スクールサポーターへ行く途中や、アルバイトの休憩時間などちょっとした時間を使って、「らくらくマスター」で勉強するようしていました。そうやって時間は短くてもできるだけ毎日繰り返すようしていました。

○4月から本格的に勉強スタート！1次試験に向けて・・・

～筆記試験～

4月から6月にかけて、教職教養は「教職教養ランナー」と「滋賀県教員試験参考書シリーズ 教職教養」を併用して使っていました。「教職教養ランナー」だけではのっていない法規があったりするのでそれを補って、すべて「教職教養ランナー」の空欄に書き込み、1冊を見ればすべてわかるようにしていきましました。小学校全科は「らくらくマスター」で学習指導要領を覚えましました。また、覚えたことを休憩をかねて友達とゲーム感覚で確かめていました。たとえば、「3年生の理科の目標」とテーマを決めて、学習指導要領の3年生の理科の目標のところにでてくるキーワードを思いつくだけ言い合ったりしました。学習指導の教科の目標は自分たちなりに歌をつくったりもして覚えていました。知識問題は東京アカデミーの「小学校全科 問題集」をひたすら何度も解きました。歌唱共通教材をBGMにして勉強したりもしていました。一般教養は小学校全科と範囲がかぶっているところが多いので小学校全科の範囲に含まれないところだけを「一般教養ランナー」で勉強しました。6月後半ごろから、過去問や「教職課程 臨時増刊号 直前予想問題」を解きながら自分に足りないところをはっきりさせて勉強していきましました。

～小論文対策～

小論文は教職実践論で先生にしっかり見ていただくことができます。まずは、毎週出される課題をきっちりこなすことを心掛けていました。6月後半ごろからは一緒に勉強している友達と時間を決めて教職実践論でいただいたプリントの課題の中から毎日1本は書くことにしてしまし

た。はじめは、時間を意識するよりも、教職実践論の教科書を見ながら何を書くべきか相談しながら書くようにしていました。慣れてきてからは時間をはかって、本番と同じ状況で書く練習をしました。そうすると時間の感覚もつかめて時間内に書くことができるようになりました。それを教職実践論の先生に添削していただいていたいました。

～集団面接対策～

面接対策は一人ではできません。私は友達とグループで先生に指導していただいていたいました。教員採用試験受験者報告書の過去問から問題を出していただき、本番と同じ形で練習をしていました。そこで大切だと思ったのは面接ノートをしっかりつくることです。出された質問について自分はどう思ったのか、友達はどうかをメモします。そうすることで、自分の意見をまとめることができ、友達の素晴らしい意見を盗むことができます。また、自分の意見をまとめるために友達と教育問題について意見を出し合うようにして、考えを深めるようにしていました。集団面接なので、短い時間で自分の考えを明確に伝える練習が必要だと感じました。面接は、内容だけではなく印象も大切なので、デジタルカメラでお互いの面接の様子を撮影して指摘しあったりもしていました。撮影して振り返ることで、自分の意識していなかったくせなども見えてきて、表情や姿勢を意識することができるようになりました。友達と協力しあって、ともに勉強する仲間をつくるのがとても大切だと思いました。

○1次試験を終えて・・・

1次試験が終わると気が抜けて、結果が出るまで2次試験の対策なんて・・・とってしまいます。そこで、面接や模擬授業も大切ですが、私は水泳が苦手だったので気分転換を兼ねてスポーツクラブに通いました。そうすることで気持ちもまぎれ、2次試験対策もできて効率的だと思います。

○2次試験に向けて・・・

～模擬授業対策～

小学校は、教科は選択できますが1年生～6年生のどの内容かはわかりません。そこで私は勉強仲間と教科を算数に絞って分担して指導案を考えました。誰かが1つの内容について指導案を書いて、授業をして意見を出し合い、自分なりにアレンジしていきました。同じ指導案で授業をしても子どもに対する反応の仕方や間の取り方は違うのでまったく同じ授業にはなりません。一人で全部をやろうとするのではなく協力して作り上げていくことで勉強になります。また、直前には、過去問からくじをつくって本番と同じ形式で練習したり、デジタルカメラで撮影したりしていました。本番と同じ長さで練習して時間の感覚をつかんでおくことも大切だと思います。

～面接対策～

個人面接なので、集団のときよりもしっかり自分の考えを伝えられます。その分、必要な知識を持っていないとなりません。筆記が終わったからと気を抜かずに、教職教養の知識を忘れてしまわないようにすることが大切だと感じました。また、2次試験の面接では自分が教師になったときに具体的にどんな取り組みをしていきたいのかということを確認しておくことが大切です。自分がなりたい教師像が明確になっていけばいほど、どんな質問にも自分の軸から考えを述べるができるからです。

～音楽実技～

ピアノは毎日2時間、練習すると決めて練習しました。得意な子に自分の演奏を聴いてもらって注意してもらったりしていました。難しい曲を弾くよりも自分に合った曲を楽譜通りにしっかり演奏できる方がいいと思います。リコーダーは、音楽をやっている友達に実際にリズムを考えてもらって本番形式で練習しました。

～水泳実技～

私は水泳がとても苦手で25m泳ぐのもしんどいという状況でした。1次試験が終わってからスポーツクラブで水泳のレッスンに入ったり、友達と学校のプールを借りて練習したりしていました。息継ぎのポイントや手の使い方などみんながたくさんアドバイスをくれたおかげで本番では50mを無事泳ぎきることができました。

○やっておいたほうが良いこと・・・

私は3回生から4回生のはじめまでスクールサポーターで毎週子どもたちの、先生方のいろいろな姿をみていました。その活動を形にしておくことが大切です。そして、様々な経験の中から自分の引き出しを増やしておくことが大切です。それが、教員採用試験のつらさに負けないために、そして、自分のなりたい教師像を明確にするために必要になってくると思います。

○おわりに・・・

教員採用試験の勉強は長くてしんどいときや、やる気がなくなる時があります。でもそんなときにあなたを支えてくれるのが一緒に勉強する勉強仲間です。一緒に勉強するからこそ得られる学びがたくさんあります。一人じゃないということを忘れずにいてください。

そして、あなたはどんな先生になりたいですか？どんな子どもたちを育てたいですか？その答えがきっと頑張ろうという気持ちにさせてくれます。

教員採用試験は教師になるための大きく成長できるワンステップだと思います。仲間と一緒に自分の理想を現実にするために目標に向かって頑張ってください。

K・Mさん（芸術表現教育コース） 滋賀県中学校・美術 合格

はじめに

私が教員採用試験を受けようと思ったのは、3回生の教育実習を終えてしばらくしてからでした。実習を終えて教師になるのも素敵だなとは感じましたが、とりあえずは教師のような責任が大きく、現代社会においては風当たりの強い仕事ではなく、どこでも良いから就職できればいいと思い就職活動支援サイト等を見始めました。しかし、どの仕事にも自分自身が実際に働いている姿を浮かべることができませんでした。そんな中、ふと自分が教師になる姿を想像してみると、生徒の良さを伸ばすためにあんな授業をしたい、こんな活動を通して生徒との信頼関係を築きたい、と具体的に思い浮かべてしまう自分に気付きました。きっとこの教育学部で学び、体験していくうちに、私の中には無自覚のうちに教育の知識や教師としてのイメージ、理想、自覚のようなものが育まれていたのだと思います。私のこれまでの学びや体験を十分に活用し、また自身が邁進していくことのできる職業は教師なのだとの時になって感じ、教師を目指そうと決めました。

そのようにして、教師になろうと決心した私がその後どのように勉強してきたかを特に私が他の人とは少し異なる勉強方法だった点を取り上げながら、ここからは話していきたいと思います。とはいえ、勉強の方法については人それぞれの性格や現状などによって異なるので、自分自身にあった勉強方法を確立するためのきっかけにしてもらえればと思います。

勉強の一步目

さあ、教員採用試験に向けて勉強しよう！と思っても、正直まず何をしたらいいのかわかりませんでした。とりあえず勉強かなと思い、10月の終わり頃に生協で売ってある参考書を手始めに何冊か購入し、まずは勉強から始めてみました。けれども、この勉強が本当に試験の役に立っているのか全く自信がなく、闇雲に勉強しているにすぎませんでした。そんなとき、小学校の教員を目指している同じコースの友人が「小学校の教員になったOBさん(Kさん)を呼んで勉強会をしよう」と誘ってくれました。この友人の声かけにより私と私を誘ってくれた友人と他2人の4人で一つの勉強グループをつくることができ、より充実した勉強が可能になりました。

先輩から学ぶ ①

最初にKさんがきてくださったのは11月の半ば頃で、その後二次試験が終わるまで月に一回大学にきて、私たちに指導をしていただきました。そこで試験はどのようなものであるか、どんな雰囲気か、今の時期は何をしていたかなど事細かに話していただき、徐々に試験が現実味をおびていきました。また、Kさんの月一来訪が私たちの勉強スケジュールの目標規準のようになっていきました。

下記はKさんが教えてくださった勉強法を大まかにまとめたものです。

●勉強は教職教養と専門教科だけにしぼること

滋賀県の一次試験は一般教養・教職教養、専門教養、小論文の筆記テストと集団討論を含む面接テストになります。一般教養と教職教養は一つのテストの中に半分半分の配点で構成されています。そのため、教職教養が高得点であれば一般教養が少し低い点数でもカバーすることができます。

●教職教養と専門教科は4月頃までは何度も目を通すように勉強し、4月以降は全てを覚えるように猛勉強すること

教職教養や専門教養など覚えることはあまり早くやると忘れてしまいます。かといって何にもやらないと頭にすっと入ってきません。最初の時期には無理やり覚えるのではなく、言葉の雰囲気やイメージを持って置くことが再度勉強するときに覚えやすくなり、後半の猛勉強時にスムー

ズに記憶していくことができます。

●最初に一度、過去問を解いて問題の傾向を感じておくこと

滋賀県の問題は解いてみるとわかりますが、滋賀県ゆかりの問題が多く、また専門教科も出題傾向がはっきりしています。しっかり勉強しなければならないところとそうでないところを理解しておくことでスムーズに勉強できます。

●集団討論などの面接の練習を早い段階から継続的に行うこと

滋賀県の教員採用試験は一次試験、二次試験ともに面接の配点が非常に高いです。そして、面接は筆記の勉強よりも実際に口に出して周りに話すため忘れにくいです。そのため、早い段階から面接対策をしておき、面接の能力を高めておくことで他の受験者と大きく差をつけることができます。また、面接を練習すると滋賀県の教育政策や教育の時事問題、自身の教育体験等を学びまとめていくことができるため、小論文や教職教養に役立っていきます。

私たちはこれらのことをKさんから学び実践していきました。特に面接練習は11月の半ばから週に二回程度、継続的に行っていた成果として、みんなが面接練習をしだす頃には他の人よりも達者に話すことができていたと思います。一次試験を不安なく乗り越えることができたのはKさんの指導のおかげでした。

先輩から学ぶ ②

一次試験を突破し、二次試験に向かうにあたって不安なことがでてきました。二次試験は実技試験、個人面接、指導実技となり、一次試験に比べると専門教科の内容が色濃くなります。しかし先ほどのKさんは小学校の教員のため、中学校美術について詳しくきくことができません。そこで私は一つ上で中学校の美術で採用されたOBさん(Mさん)に美術科特有の試験対策をお願いしました。Mさんには二次試験の2週間前ぐらい試験日までから2～3日に一回程度と何度も大学にきていただきました。滋賀県中学校の美術科は数年前に募集を再開したばかりで、大学にもほとんど試験に関するデータがなかったため、Mさんのお話は本当に貴重なものでした。実技は持ち物からみて、透明水彩による着彩だろうと想像はついたものの、何を描くのか、どのような環境で描くのかなどが一切不明でしたが、Mさんの話から着彩のモチーフがどのようなものか、光源はどこから得るのかなど着彩においての重要な事柄を知ることができ、また要項には特に書かれていないワークシートが存在などもわかりました。他にも美術の模擬授業の進め方のコツや美術科だからきかれやすい個人面接の質問、待ち時間の様子など、他ではわからないことを学ばせていただきました。この指導、お話のおかげで、二次試験もまた緊張はしましたが、不安なく終えることができました。

Mさんから一対一で指導をしていただいたため、私自身に対するアドバイスや中学校美術の特性を考慮したお話が多く、Kさんとはまた違った視点の内容がみられたことで、私の中により多様な教育観を育めたように思います。

OBさんは数年前に教員採用試験を受けたばかりであり、私たちの気持ちや在り様をよく理解してくださり、また最新の試験の様子を肌で感じさせてくれるため、先生方とはまた違った学びを与えてくださいます。もし、連絡先のわかるOBさんがいたらすぐに連絡することをお勧めします。ここでは教職実践論や教採セミナーなどの話を書きませんでした。それは私が他の人とは違った学びをした点を取り上げたためです。実践論の先生方や大学の先生方からのご指導は教師になっていく上で一番の基本であり、心得であり、決して忘れてはいけないことです。先生方のお話と先輩方のお話をバランスよくきき、自らの学びに変えていただけたらと思います。

おわりに

幼いころから教師になりたい方もいれば、私のようにふとした時に教師になろうと決心する方もいると思います。教員採用試験の勉強を始めた頃、私は周りのみんなに比べて教師になりたいと思うのが遅すぎたのかもしれない、だからみんなよりも教師になるための思いが足りてなかった

りするのかもしれないと思った時もありました。しかし、教員採用試験が終わって振り返ってみると、もちろん、採用試験の二か月前に決心したとなると準備期間が足りませんが、教師になりたいと決心することが遅くとも早くとも大した差はないのだということがわかりました。何か差がでるとすれば、どれだけリアリティを持って教師になりたいと思えるかだと思います。子どものことが好きだから、教師という仕事にあこがれを持っているからという自らの思いは大切です。しかし、実際に教師になった時、自分がどんな問題にどのように対応していくのか、このような生徒の良さを伸ばすためにどのような指導をしていくのかなど具体的な考えや姿が見え、その上で今の私が何を勉強していくべきかが見出せるかどうか、教員採用試験突破のため、また教師を続けていくためには重要なことだと思います。未来の子どもたちの姿、自分の姿をみることができれば、自然と教師への道は開けてくるのかもしれませんが、途中、苦しいことや諦めたくなることもあると思いますが、共に勉強に励む大切な仲間をつくり、力いっぱい頑張ってください。応援しています。

S・Nさん（障害児教育コース）

滋賀県特別支援学校 合格

【はじめに】

私は、教育実習に行くまでは公務員試験と迷っていました。9月の実習を終えて、改めて振り返ってみて、特別支援教育の

（１）少人数教育で子どもの良いところを伸ばすことができる点

（２）自分の長所（趣味、特技、性格等）を日々の教育活動に活かすことができる点

に惹かれ、本格的に特別支援学校の教員を目指すことにしました。

【専門教養】

「オープンセサミシリーズステップアップ問題集 特別支援教育」は、問題演習に使っていました。解説もわかりやすく、良問揃いの参考書だと思います。「らくらくマスター特別支援教育」は、通学時間や休み時間に読んでいました。要点が簡潔にまとめているので、他の参考書と併用して使うのがいいと思います。「特別支援教育学習指導要領」は、用語の確認に使っていました。

「滋賀県の特別支援教育」は、過去問が載っています。問題形式は変わる可能性もありますが、傾向は掴めるかと思います。最新年度版は、他の校種よりも出版が遅いです。また、記述式の問題は、いきなり文章題を解くのではなく、関連したキーワードを覚えるようにしていました。

【一般教養】

「滋賀県の教職・一般教養」を、過去問演習として使っていました。また「オープンセサミシリーズ 一般教養」を、3回生の4月からぼちぼち進めていました。その他、数学は高校の時のセンター試験の問題集、英語は速読英単語を読んでいました。自信のある教科、3教科満点を目指しておけば大丈夫だと思います。

【教職教養】

「教職教養らくらくマスター」を、何周もしてとりあえず、単語を頭にやきつけるようなイメージです。わからない言葉は、文献やインターネットで自分で調べるのが大切だと思います。また、「教職教養30日完成」に、赤で書き込み、赤シートで隠して穴埋めをしていました。協同出版の過去問は、生協に並び始めるとすぐに売り切れしますので、教採直前とかだと手に入りにくいかもしれません。お早めに。

これらの参考書も大切なのですが、県や文科省が出している答申、刊行物、リーフレットなども読んでおく必要があります。特に滋賀県は、県が出しているリーフレットからの問題が全体の3割ぐらいを占める印象です。

【小論文】

教職実践論が始まってから対策をしました。実践論の先生に毎週添削をしていただきました。また、「教職課程セミナー」という雑誌で、小論文の添削をしているページがあったので読んでいました。小論文のテーマや内容は集団討論ともかぶることが多いので、練習では書き方やフォーマットを覚えるのが良いと思います。実践論の授業を大切に受講していれば、大丈夫だと思います。

【集団面接】

①対策

6月ぐらいから、友人と集まって対策をしていました。コースの友達、部活の友達、授業で一緒だった友達とも練習をしていました。校種や教科が違う友人の多様な考え方を学ぶことが出来

てよかったです。また、考えや意見をまとめたノートを作りました。大学の先生にいただいたアドバイスや、友人の「これ、いいな！」と思った意見などを書き留めました。就活で、既に面接をいくつも受けてきた友達のアドバイスもききました。

さらに、広島教採塾の河野正夫先生には、自己PRを音声ファイルで添削していただきました。録音機器（スマートフォンのアプリ）を使って録音し、ファイルをメールで添付して送信、そしてアドバイスをいただきました。自分の声を録音するのは、ちょっぴり恥ずかしいですが、話すテンポや特長、伝わりにくい所（弱点）を知ることができたので、非常に画期的な方法のように思います。河野先生は現在、ツイッター（@kyousaijuku）でも講義をされています。

②本番

自己PR、集団討論、個別質問の順でした。自己PRは1分間。時間がオーバーすれば打ち切られるので、50秒ほどにまとめるのがよいと思います。原稿では300字程度。ゆっくり伝えるように話すこと。

集団討論のテーマは、「あなたの学級でいじめが起きた場合、担任としてどうしますか？」というものでした。発言は、20分間に3回しました。挙手だけなら、もう少ししていたように思います。大切なことは、テーマをしっかり踏まえておくことだと思います。討論全体の流れがテーマからずれていることに気づいたら、テーマに戻すように促すのも大切な役割だと思います。批判はNG。同調する場合は、同じことを繰り返して述べるのではなく、自分なりの考えを述べることも大切だと思います。

【模擬授業】

1次試験の集団面接練習メンバーで、過去問に沿って模擬授業を即興で作り、アドバイスしていました。授業を動画で録画して、あとで見るようにもしていました。

当日は、中学部、英語、肢体不自由「週末の予定を言えるように指導しなさい」という内容でした。取得する免許によって内容が大きく違うと思います。英語の授業だったので、クラスルームイングリッシュを多用していました。また、肢体不自由なので、生徒の目線を意識して話しかけ、筆記が困難（という設定）で、生徒とのコミュニケーションをたくさん取り入れるように意識しました。審査員の方はたくさんいましたが、生徒役ではありませんでした。模擬授業は、とにかく大きな声でゆっくりと、一人ひとりに伝わるように、ということを中心にしました。教科内容学をしっかりと学んでおくことはもちろん前提で、それをいかに特別支援学校の先生として演じるかが大切だと思います。試験会場には、文房具や画用紙が置いてあるので、短い時間ですが、教材を作ることもできます。視覚支援に活用できると良いと思います。なお、過去問は、県庁の情報資料室でコピーが可能です。自分の持っている免許の科目で練習した方が良いでしょう。

【個人面接】

質問そのものは難しくはなかったのですが、「あなたにとって、人生の転機とはいつですか？」など、緊張している場面ではすぐには答えづらい質問もありました。対策は1次試験の集団面接と同じく、友人たちと集まって練習をしたり、意見をノートにまとめたりしていました。知識を問うというよりは、平易な質問で人間性をみるという感じでした。

【ワンポイントアドバイス】

日々の勉強や本番で使えるようなワンポイントアドバイスをちょっとだけ書きます。

- ・試験当日まで、投資を惜しまないこと！
参考書代、模擬試験代、当日の服装、喫茶店での勉強代など…。
- ・スマートフォンを積極的に活用！
上記にも書きましたが、スマートフォンを使えば音声を録音したり、動画を撮ることが簡単に出来ます。自分を客観的に見るツールとして、本当に便利だと思います。
- ・友達と協力しあうこと！

特に、面接、討論などは、友達と協力して対策した方がお互いにメリットがあり、良いように思います。時には、自分の所属しているコミュニティから一歩踏み出して、他のコミュニティのメンバーと練習することも大切だと思います。

【おわりに】

教員採用試験を通して、最も強く感じたことは、本当にたくさんの方に支えられて合格できたということです。一緒に目標に向かって切磋琢磨した友人、大学の先生方（特にコースのS先生には週一で勉強会を開いていただきました）、実習先の先生、そして家族…。自分一人では、合格はなかなか難しかったように思います。言葉に表せないぐらいの感謝の気持ちでいっぱいです。多くの人から学んだものを、これから始まる教員生活で、しっかり還元していきたいです。今回、このような執筆の機会をくださったことを大変嬉しく思っています。少しでも、お役に立てれば幸いです。ありがとうございました。

S・Aさん（幼児教育コース）

彦根市幼稚園 合格

【はじめに】

私は小学生の時から幼児教育にかかわる職業に就きたいと考え、滋賀大学教育学部に入学しました。しかし3回生の本実習を経て「自分にこの職業が向いているのか」と悩み、正直に言うと幼稚園教諭の採用試験を受けるか一般行政(市役所での仕事)の採用試験を受けるかわりと遅い時期まで迷っていました。一応は幼稚園教諭の採用試験を受けるつもりで、3回生の12月から教材は購入していましたが、勉強自体は幼稚園教諭にも一般行政にも共通の一般教養や一般知能から勉強し、専門試験の勉強はあまりしていませんでした。また2,3月に保育士資格の実習が入っていたため、実習自体や事前の準備、事後の実習論文などがあり、2,3月はあまり勉強に集中して取り組むことはできませんでした。結局4回生の4月から本格的に勉強に取り組むこととなりました。

【幼稚園教諭の採用試験を受けるまで】

今年度の彦根市の幼稚園教諭の採用人数は1人ということで、決して楽な状況とは言えませんでした。私はそれを見て、「こんなに厳しい状況を切り抜けてまで自分は幼稚園教諭になりたいのか。」「そもそも自分はこの職業に向いているのか。」など悩むことになりました。周囲の友人たちに「何故教師になりたいのか?」と毎日聞いていましたが、自分の中では友人たちの言葉に納得できないまま毎日が過ぎていきました。しかしある時、私は「自分はこの厳しい状況を切り抜けることを面倒くさがっているのではないか。」「採用予定人数1人ということに恐れているのではないか。」と思い始め、「幼稚園教諭の採用予定人数が一般行政と同じだったら自分はどちらを受けるのだろうか。」と考えてみました。そのときにやっと一般行政の仕事よりも幼稚園教諭の仕事の方がしたいと気付くことができました。

【試験の流れと内容】

第1次試験・・・平成24年7月22日(日)

《教養試験》 9:00~11:00 マーク式

大きく国語・数学・理科・社会・英語などの一般的知識と、数的推理・判断推理・資料解釈・文章理解からなる数的処理の2つに分けられます。一般的知識については社会、特に現代社会や政治経済、世界史などの分野が多く出されていました。数的処理については数的推理と判断推理が多く出されていました。

《専門試験》 12:00~13:30 マーク式

教育法規や教育心理、教育史、保育史、保育原理、幼児理解、幼稚園教育要領についてなど一般に教職教養と言われるような職務上必要な専門知識について試験を行います。

《適性検査》 13:40~14:10

YG方式。性格検査みたいなものなので、気負わずに正直に答えれば大丈夫だと思います。ただやり方に対して慣れるまで少し戸惑うこともあるかもしれないので、私は前もってどんなものか見ておきました。

《口述試験》 14:20~

集団面接による試験で、試験官は時間をはかる人を含めて3人でした。時間をはかる人は時間をはかるだけなので、質問するのは2人の試験官だけでした。全員に同じ質問をされ、答える順番は挙手制で当てられた人から答えました。自己PR(2分間)やどんな保育がしたいかなどが聞かれました。最後の質問は「安心・安全」「家庭との連携」「持続発展教育」という3つのキーワードが出され、その中から自分で好きなものを選んで、それについて自由に意見を述べるというものでした。

第1次試験合格発表・・・8月上旬

第2次試験・・・平成24年8月19日

《作文試験》 8:40~9:40

「幼稚園教育と家庭教育の役割」というような題で800字ほどで書くという課題でした。

《実技試験》

- ・ 絵画・・・例年あるタイトルについて絵を描くというものやキャラクターを描くというものですが、今年は傾向が大きく変更となり、3人もしくは4人1組でグループをつくり、新聞とセロハンテープのみを使って頭からつま先まで衣装を作るというものでした。
- ・ 音楽・・・ピアノの弾き歌いで、2次試験の案内とともに前もって2種類の課題曲の楽譜が送られてきます。そのうちどちらかを自分で選択し、弾き歌います。今年は「ありさんのおはなし」と「ともだち讃歌」でした。「ともだち讃歌」の方が難しい歌だったので、そちらの方が得点が高いのではないかとも思いましたが、私はピアノが苦手な難しい歌を選択してつまってしまうよりは、簡単な歌でもつまらずに自信をもってやる方がいいと思い、「ありさんのおはなし」を選択しました。ピアノや楽譜をずっと見ているのではなく、目の前に子どもたちがいると想定して、視線を横に向けて微笑みながら弾き歌うなどすると思います。また7月という暑い季節で、窓を開けていたりするので、風で楽譜が飛んでしまったという人がいました。なので楽譜をダンボール紙のような厚紙に貼っておくと思います。弾き歌いが終わった後に試験官(1人)から「音楽は好きですか?」という質問をされました。
- ・ リズム運動・・・「ハグしちゃお」というドラえもんの主題歌ともなった歌を1曲聞き、4歳児向けの振り付けを考えるというものでした。歌を最初から最後まで聞いた後、少しの時間考える時間が与えられ、すぐに発表でした。

《口述試験》

2次試験の口述試験は個人面接でした。1人12分程度でした。1次試験のときとは違い、試験官が7、8人とたくさんいたのですごく緊張しました。2次試験の案内とともに送られてくる面接シートを前もって提出しておき、それを基に面接されました。

2次試験合格発表・・・9月上旬

【教材について】

私はこの採用試験が人生で初めての受験でした。中高一貫校に通っていたため高校受験をしておらず、大学も推薦入試で入学したので小論文や面接の勉強は多少していたものの、知識を頭に入れるような勉強はしていなかったため、どんな教材をそろえてどんな方法で勉強をすればいいのかも分からず、勉強方法を確立するまでにも時間がかかりました。幼稚園教諭の採用試験を受けるのを決めたのが遅かったため焦る気持ちもあり、はじめのうちは良さそうな参考書を見つけるとすぐに購入し、たくさんの参考書をそろえていましたが、それだとどれも浅くしか頭に入らず、どれもちゃんとできていないような気持ちになりさらに焦る気持ちが大きくなっていったので、自分でこれと決めたものを何回も反復する方が知識が定着しやすいのではないかなと思いました。

【勉強方法について】

《教養試験》

一般教養の中でも一般的知識は範囲がとてつもなく広く、網羅するのはすごく大変だと思うので、自分の得意な分野や出題されそうな分野を重点的にやる方がいいと思います。また解けない問題にあまりこだわりすぎない方がいいのではと思います。数的処理については、ある程度解き方のパターンがあり、それを覚えることで解きやすくなるので、何度も反復してパターン

を覚えるといいと思います。

《専門試験》

専門知識については範囲も限られており、内容もこれまでの大学の授業で学んできたことが多くあるので、できるだけ完璧に覚えるようにしてこちらで点数を取れるようにしておくのがいいのではないかと思います。

《作文》

たくさん書けば書くほど力になるとは思いますが、他の勉強もあり、なかなか自主的にやるというのは難しいと思うので、大学の教職実践論での小論文の練習を真面目に受けていけば大丈夫ではないかと思います。大変なことではありますが文字数も限られているので、自分の伝えたいことを分かりやすく、簡潔に伝えられるよう頑張ってください。

《実技》《面接》

ピアノは個人で練習できますが、絵画やリズム運動は子ども向け番組をみて振り付けのパターンを覚えたり、友人同士で一緒に楽しく練習していました。友人同士ですることによって「こんなもあるんだ」などの発見ができ、自分のパターンも増えていくので良いと思います。自分が良いと思ったものは積極的に吸収していきましょう。絵画やリズム運動などでは「〇歳児と想定して」というのがあったりするので、発達段階を知っておくといいと思います。

【おわりに】

採用試験を経て強く感じたのは、周囲の人たちがいたからこそ頑張れたという思いでした。1人ではここまで頑張ることはできなかったのではないかと思います。同じ目標をもつ友人とともに分からないところを教え合ったり、時には励まし合ったりしたからこそ苦しいことも楽しさに変わったり、また頑張ろうと思えたのだと思います。採用試験は長期戦です。また幼稚園教諭や保育士、公務員の採用試験は市町村によって試験の時期が異なりますし、小学校や中学校、高校の採用試験とも時期が違います。次々に解放されていく友人を見て、諦めそうになるかもしれませんが、あまり無理をしすぎず、時には休憩をしながら頑張りたいと思います。陰ながら応援しています。

S・Aさん（メディア教育コース）
大阪府小学校 合格

〇はじめに

私が教員採用試験を受けることを決意したのは、3回生の教育実習を終えてからです。実際に子どもたちと触れ合っていくうちに、ずっと子どもたちのそばにいたい、成長を支えていきたいと感じたからです。しかし、小学校教諭以外の免許・資格にかかわる実習があったことや、なかなか採用試験のイメージが湧かなかったこともあり、試験対策を始めたのが遅くなり、4回生になってからでした。このような私が、採用試験に向けて頑張ることができたのは、同じ小学校の採用試験を受ける仲間たちが、私を引っ張ってくれたからです。今回は、その仲間たちとの採用試験までの道のりとアドバイスを紹介し、少しでも皆さんの参考になればと思います。

〇1次試験

筆記試験

大阪府は、一般教養の割合が高く、教職教養の内容も基本的なことが多いので、一般教養の勉強に力を入れました。

筆記試験は試験を実施する各都道府県によって、傾向が異なります。試験対策を始める前に、一度過去問を1年分解き、どのような問題がでているか、どのような問われ方をするのかなど傾向をつかんでおくとういと思います。また、出題範囲も数年分チェックし、勉強する範囲を狭めていくことも、効率よく勉強を進める上で有効だと思います。

【一般教養】

使用テキスト『一般教養ランナー』

確実に点をとれるところを、確実にとる！ことがポイントだと思います。私の場合、数学・理科が得意だったので、数学・理科の出題範囲は満点を取るという意気込みで挑みました。反対に、昔から歴史が苦手だったことから、今更この数か月で勉強したところで間に合わないと判断し、ほとんど対策はしませんでした。その代わりに、数学・理科は確実に解けるようにしようと、過去問を解くことを中心に取り組みました。数学・理科が苦手な方へアドバイスですが、一緒に勉強した仲間の経験から…苦手でも採用試験の問題は解けます！出題範囲も広くないですし、難易度も高くありません。少し練習すれば、すぐに解けるようになります。

また、確実にとれるところとして、「美術」「音楽」が必ず出題されます。この二つはそれほど範囲が広くないので、対策をしておくことをお勧めします。勉強の仕方としては、私の場合を紹介すると、美術に関しては、作品の画像を見ながら「作品名」「作者」「特徴」を覚えていきました。音楽に関しては、小学校共通教材から出題されることがほとんどなので、第1学年～第6学年、各教材を歌えるようにしました。音楽が苦手な方は、音符の読み方や、記号の意味なども勉強し、楽譜を読めるようにしておくとういと思います。

【教職教養】

使用テキスト『教職教養らくらくマスター』

大阪府は一般教養に比べ、教職教養の出題の割合が小さいので、あまり力を入れませんでした。まず過去問を解き、出題の傾向を掴み、よく出題される範囲を中心に勉強していきました。その中で、必ず勉強しておいたほうがいいところは、「学習指導要領の変遷」「教育法規（教育基本法・学校教育法・地方公務員法など）」です。その他、生徒指導提要やキャリア教育などの範囲は、過去問を解くうちに覚えます。

面接試験

【集団面接】

面接官と会話をする、これが面接のポイントだと思います。面接はとても緊張すると思いますが、人と会話していると意識すれば、少しリラックスできると思います。面接官からの質問に対して、的確に、しっかりと話すことは大切だと思いますが、必ずしもハキハキ！と話さなければならないと思うことはないと思います。あくまでも自然に、自分の雰囲気もアピールの一つとして、話し方や振る舞いを考えるといいと思います。

対策については、何度も面接練習を繰り返しました。「志望理由」「理想の教師像・子ども像」「1分間・30秒・15秒・一言スピーチ」については、毎回ブレないように、話すことを決めていました。また、「子どものコミュニケーション能力が低下しているといわれているが、どう思いますか？」など「〇〇について、どう思うか」という質問をよくされるので、「コミュニケーション能力」「規範意識」「信頼される教師」「豊かな人間性」「いじめ・不登校」…など、よく問われるキーワードについて、一緒に勉強している仲間と一度話し合いをして、自分の考えをまとめておくといいと思います。私は、面接ノートをつくり、これらのことを書きとめ、いつでも見られるように持ち歩いていました。

○2次試験

大阪府の場合、2次試験は1次試験よりも試験項目が増えます。1次試験から2次試験までは約1か月しかありません。私も実際焦りましたし、少し不安なまま試験に挑むことになってしまいました。2次試験の対策は1次試験が終わってから、と言わずに、前もって少しずつ進めておくのがいいと思います。

筆記試験

【小学校全科】

使用テキスト『オープンセサミシリーズ 小学校全科問題集』

『小学校新学習指導要領パスライン』

大阪府は国語・算数・理科・社会の4教科で、問題は一般教養と大きく変わらないので、指導要領の勉強に時間をかけました。指導要領からの出題は少ないですが、各教科必ず1問は出題されます。4教科なので範囲も広くないですし、難易度も高くないので、一通り覚えておくとういと思います。学習内容について系統的に見ていくことがオススメです。

【小論文】

小論文の対策に関しては、教職実践論の中で毎週練習ができ、先生が丁寧に添削してくださったので、それのみです。テーマに関しては、面接でも聞かれるようなことが多いので、面接対策ができていれば、内容については心配ないと思います。あとは、時間配分や構成、誤字脱字に気を付け、丁寧かつ読みやすい字で書くことを心掛けることが大切だと思います。

実技試験

【実技（水泳）】

水泳が苦手でないにしろ、いきなり本番は心配でしたので、一度友人とプールへ行き、泳ぎの確認をしました。

【模擬授業】

大阪府はH24年度実施の試験より、模擬授業をする単元が指定されるようになりました。このことから、内容より、立ち居振る舞いや表情、目線、声、子どもとのかけ合いなどが重視されると考え、それらを意識して何度も練習をしました。

面接試験

【個人面接】

個人面接は、集団面接のような質問内容＋個票からの質問が主です。したがって、個票に書いたことをしっかりと頭に入れ、それについてのエピソードや学んだこと、どう活かすかなど、派生させて考えておきました。

個人面接でも、集団面接同様、人との会話を意識することが大切だと思います。

○おわりに

教員採用試験は私一人では乗り切れなかったと思います。嫌なことから逃げがちな私にとって、周りの仲間たちの存在はとても大きかったです。いい意味での焦りの気持ちを持たせてくれたり、互いを励ましあったり、支え合ってきたからこそ、教員になりたいという思いが強くなり、試験にも合格できたのだと思います。私は、教採をきっかけに、これからどういう教員になりたいのか、どういう子どもを育てていきたいのかなど、あらためて考えることができました。この先も、教採を共に乗り切った仲間と支え合いながら頑張っていきたいと思っています。これから採用試験を受ける皆さん、周りの仲間と支え励まし合いながら、頑張ってください！

N・Aさん（言語教育コース）

滋賀県中学校・国語 合格

■はじめに

私は高校時代ほとんど勉強せずに部活ばかりしており、滋賀大にも公募推薦で入学したため、学力には全く自信がありませんでした。そこで教員採用試験を受けるにあたって、一次試験の筆記の勉強にかなりの時間を割きました。その点において他の方とは少し違うかもしれませんが、私の体験が少しでもみなさんのお役に立つことができれば幸いです。

■一次試験

○教職・一般教養

まず手をつけはじめたのが教職教養でした。本格的に勉強をはじめたのは2月からだったと思います。参考書を一通り読んで、暗記用のテキストを埋めていきました。それを毎日繰り返し暗記していくと同時に問題集も解いていきました。教職教養に関してはこの3種類しかテキストを使っていません。何度も繰り返し使い、問題集は間違えたところに印をつけながら3～4周は解いたと思います。とにかく学力に自信がなかったので、暗記なら私にもできると思い「これだけは絶対に完璧にしよう」という気持ちで重点的に取り組んでいました。少し余裕がでてきた頃（恐らく5月ごろ）からは県のHPに掲載されている指針をできるだけ多く印刷して目を通すようにしました。

一般教養に関してはほとんど勉強していません。私は英語と社会が苦手なので、今から手をつけても間に合わないと考え、割り切りました。そしてアルバイトで家庭教師をしており、数学と理科は指導していたため高校入試レベルならおそらく解けるだろうと思い、専門である国語と数学・理科の3教科で点数を取れるようにしました。一般教養はとにかく出題範囲は広いので、自分にあった点数の取り方を考えるのが一番だと思います。

○専門教養

中でも一番の時間と労力をかけて勉強したのが専門教養です。試験に合格することはもちろん大事な目的ですが、教員になってから問題もとけないようでは恥ずかしいと思い、先のことを考えながら勉強していました。はじめは入門程度の問題も解けず、自分の勉強不足を悔いるばかりでしたが、地道に勉強を進めていくことで最終的には難関国立大の二次試験対策の問題集も解けるようになりました。使用した参考書・問題集は6～7冊です。例年少ししか出題されない文学史についても、先のことを考えて主要なものをすべて単語カードに書き出し、暗記していきました。本番の試験ではそんなに難しい問題は出題されず、文学史に関しては一問も出題されませんでした。勉強したことは決して無駄ではなく、私の自信に繋がりました。

○集団面接

集団面接のはじめに行われるのが1分間スピーチです。私は1分間にアドリブで話すのは緊張して絶対に無理だと思ったので、あらかじめ原稿を暗記していきました。とにかく一文を短くし、面接官に伝わりやすく話すことを意識しました。

集団討論については、実践論での練習や友達との練習を重ねました。その中でよい意見はノートにメモし、自分の言葉にして使えるようにしていきました。練習を重ねるうちに多くの滋賀大生は「いかにして円滑な討論を進めるか」に重点を置いていたように思います。しかし私はおそらく緊張してそんなテクニカルなことはできないと思ったので、本番の試験では他の受験者の話をよく聞き、考えを素直に発言することだけに集中しました。もちろん、練習は役に立ちましたが、本番の討論のメンバーは初対面の6～7人であるため、どれだけ友達との練習で円滑な進め方ができていたとしても、何が起こるかわからないと心の中で準備しておくことも大切だと思います。

ました。

○小論文

小論文は大学入試の時にかなり練習したため、ある程度は書けるだろうという自信がありました。しかし実践論やゼミで先生にみて頂くと、「いまいちだ」と言われることがよくありました。具体例がはっきりと書けていなかったからでした。そこでスクールサポーターで書いていたメモや、実習の時に書いたメモから具体例に使えるものを集めていきました。そのため、普段から現職の先生方の授業を見たり、休み時間に生徒と関わる機会を多く持ったりする必要があったと思います。そこでの経験は小論文だけでなく、面接にもいきてくると思います。

■二次試験

○模擬授業

まずは過去問を入手しました。数年分を見ると出題傾向が限られていたため、過去問は全て事前に指導案を作るようにしました。それに加えて出題される可能性がありそうな単元の指導案も作っておきました。そこで意識したのはその教材について理解していることが面接官に伝わるような指導案にすることです。実際に授業をするとすると、生徒の興味をひくような導入が大切ですが、あくまで採用試験だと割り切ってオーソドックスな（悪く言えば無難な）授業展開にしました。本番は生徒はおらず、面接官が教室後方から無言で見ているだけなので、恥ずかしがらずにできる演技力が必要です。いかにもそこに生徒がいるかのように授業をするためにひたすら友達と練習したり、実践論やゼミで先生に見て頂いたりしました。

○個人面接

これは一次試験の集団面接とおなじく練習を重ね、ノートに自分の考えをまとめるようにしました。受け答えは慣れも必要だと考えたので、友達と質問し合ったり、先生に面接官役をして頂いたりしました。試験本番は、まずは事前に提出していたカードから質問されたのですが、面接官の態度が少々圧迫的でした。想定はしていたものの、そのような練習はしていなかったため、心の中で戸惑いました。しかし何とか顔には出さずに笑顔で心がけて受け答えするようにしました。面接官は受験者の耐性を見ていると思うので、落ち着いて根気よく答えることが大切だと思います。振り返ってみると、面接に関しては作っていたノートがかなり役に立ち、自分の考えの軸になるものが明確になっていたため、たいていの質問には応用して答えることができたと思います。

■おわりに

私が採用試験を受けるにあたって大切だと思ったのは「自分自身と向き合うこと」です。自分は何が得意で何が苦手なのかを考えることで、自分にあった試験対策を考えることができるからです。また、自分がどのような考えを持っているのか、普段は「なんとなくこう思っている」というようなことに正面から向き合って言語化することで、自分の考えを明確にし、面接や小論文にいかすことができます。

それに加えて不可欠だったのはまわりのサポートです。私は同じコースの友達、実践論のグループの先生・友達、ゼミの先生・後輩、スクールサポーター先の先生など、数えきれない人々に支えられていました。この支えがなければ私は合格できなかったと思います。本当に感謝してもきれないくらい感謝しています。

これから受験されるみなさんも、自分を見つめ直し、まわりの人の支えを大切にしながら自分を信じて頑張ってください。

N・Sさん（理数教育コース）

滋賀県中学校・理科 合格

【はじめに】

教員採用試験に向けてがんばっている人たちに朗報です。部活もあったため、私は4回生の5月ごろから本格的に勉強をしました。人間、本気でがんばると思ったら時間など関係ありません。教採に向けてどのくらい真剣に立ち向かえるか、そこが大切だともいます。その1つの方法として私の勉強方法を参考にしていただければ幸いです。

【試験内容】

滋賀県

1次 一般教養、教職教養、専門教科、論作文、1分間スピーチ、集団討論、集団面接

2次 個人面接、模擬授業

【勉強法】

●教職教養

参考書：時事通信社シリーズ、らくらくマスター

3回生の1月ごろに周りの影響で本を購入しました。はじめはらくらくマスターを読んでいたのですが、もう少し詳しく知りたいと思い、時事通信社の参考書を購入し読み込みました。教育史と教育法規はつながっている部分もあったので、そこからまず覚え始めました。特に、教育法規のなかでも20条ぐらいしかない教育基本法は覚えきろうと思い頑張りました。また、滋賀県が出している指針からも出題されるので、そこも穴埋めを作ったりして覚えました。滋賀県の条例なども出てくるので、県のホームページを常にチェックし内容を把握しておくとうべらしいと思います。

●一般教養

一般教養の勉強は全くと言っていいほどしていません。滋賀県は教職教養と一般教養の配点は両方とも同じです。なので、教職教養を完璧にし、一般教養は比較的得意な理数系の問題10題は確実に取ろうと考えていました。

●専門教科

参考書：東京アカデミーの中学理科

専門教科は筆記試験では一番配点が高いということもあり、特に本気で勉強しました。私は高校時代生物、地学を履修していなかったので覚えるのに苦労しました。できなかった問題にチェックを付けておいて、完璧に解けるまで何回も繰り返しました。実際の試験の内容は高校レベルの内容は少なく、中学生の知識があれば解ける問題がほとんどでした。中学校の教科書を熟読し、疑問に感じたところはすぐに調べるという作業を繰り返すことで、知識もつき模擬授業でも役に立ちます。そのおかげで試験ではほぼ間違いなくできていたと思います。

●小論文

文章を書くことに苦戦しました。漢字やマス目など久しく気を使わなかったことに気を使いました。はじめにやったことは教職実践論で出される課題に取り組みました。その課題に隠れている本当に問われていることを読み取ることに苦労しました。本番は35分だったので、その中でお題をしっかりと読み取り、話のトピックを考え、書き出す、という流れを徹底しました。また、ときには友達と一緒に書いて添削もしました。その中からいいなと思ったことは面接ノートなどにメモを取りました。ここで考えたことは面接でも非常に役立ちました。

●面接

面接で一番大切なことはズバリ緊張しないことです。そして笑顔で相手に伝わるように話すことがポイントだと思います。1分間スピーチはしっかりとした台本を考え、1分以内に堂々

と笑顔で話せる練習しました。このなかにしっかりとした軸があると聞いている側も聞きやすく、他の質問に対しても自分の考えがまとまりやすく話しやすいです。また、子どもたちと一緒に体験したことが多いほど面接は強いです。その体験したことは自分だけの特別な体験なので、そのような話は面接官も興味を持って聞いてくれると思います。

追い込み時期にはコースの友達で集まって自主的に集団討論や個人面接の練習を繰り返しました。集団討論ではただ自分の意見を言って終わるのではなく、グループみんなで意見をまとめ、より高度な話し合いをすることが望ましいです。他人の意見を尊重し、そこに思うことがあれば自分の意見を伝える、いいなと思ったことにはあいづちを打つなど、自分が教師という立場で考えると話しやすいと思います。

●模擬授業

授業は同じコースの友達と協力して過去問を参考に指導案を作りました。はじめは各自が分担して指導案を作成し、持ち寄って検討するというやり方だったのですが、人によってやり方が違ったためあまりうまくいきませんでした。過去問を見ながら、一つの授業にみんなで作っていくというやり方に変えてから、いろいろな意見が飛び交い、とても授業が考えやすかったです。試験は12分で略案を考え、12分で授業をするというスタイルに変更されました。よって、みんなで指導案を作るときは1時間の指導案を作成しておく方が無難だと思います。そして作製した指導案をもとに空き教室で実践しながらくじを引き、授業を行い、どのようにすればよいか改善策を練りながら日々を過ごしました。当日は新指導要領の所を引き、ものすごく焦りましたが、教科書をしっかりと読んでいたためなんとか無事に乗り切ることができました。ここでも、焦らずおどおどせず、堂々と話すことがポイントだと思います。教壇の上の先生がおどおどしていたら、生徒に笑われるかもしれません。笑

【おわりに】

大学生活の中でこれほど理科について友達と熱く語り考えたことはないと言い切れるほど、この経験は私にとって大きなものでした。自分の中で軸となるものを見つけるまでは本当に苦しくてしんどかったです。しかし、あきらめず自分にしかできないことや自分の中でぼやっと思っていたことを友達に伝えることでだんだん軸となるものが見えてきました。そこからは辛かった日々が嘘のように笑顔でがんばれることができました。すべては一緒に頑張る仲間がいたからです。自分ひとりで乗り越えるにはとてつもなく大きな壁であり、ひとりでは周りが見えていないことがほとんどです。私は信頼できる仲間がそばにいるからこそ、ともに助け合い、支え合いながらがんばっていくことができました。

自分が来年、教壇に立っている姿を想像してください。少しモチベーションがあがってきませんか。生徒たちに慕われる魅力ある先生目指してみなさんがんばってください。